

## 入院患者における転倒の危険因子の 分析と対策

たて ぬま たく さか い やす お  
 蓼 沼 拓 酒 井 康 生  
 ま にわ そう きち  
 馬 庭 壯 吉

キーワード：転倒，転落，高齢者，インシデントレポート

### 要 旨

入院中の転倒事故は患者のADLを低下させ入院の長期化の一因となる。本院における転倒事故の実態と要因を明らかにするため平成14年—平成15年度のインシデント・アクシデントレポートの分析・検討を行った。

計378件の転倒事故が報告されており，何らかの処置を要したものは82件であった。年齢構成では61歳以上が約82%を占めていた。発生時間は夜間の転倒が80.4%を占めており，特に23—0時・3・6時台で多発傾向が見られた。発生場所は，ベッドサイドが最多で病室内での発生が74.6%を占めていた。内的要因には運動障害・視力低下・聴覚障害・不穩・認知症・見当識障害が見られ，外的要因としては照明の不足が最も多く報告されていた。

環境整備や監視体制の強化などの転倒対策のみでなく，転倒しにくいADLを確保できるようにリハビリテーションプログラムにスタッフ全体で取り組む必要があると考える。

### 背 景

医療の質を考える上で安全性の確保は重要な要素である。入院中の転倒は患者のADL低下の原因となるとともに入院の長期化の一因ともなる。

近年の島根大学附属病院（以下本院）におけるインシデント・アクシデントレポートでも転倒事故の報告数は上位となっている。

### 目 的

本院入院患者の転倒事故の傾向を検討し，その内的・外的因子と問題点を明らかにすることである。

### 方 法

病院内で発生・発見された事故に関してはインシデント・アクシデントレポートが提出される。

平成14年度—15年度に提出されたインシデント・アクシデントレポートから転倒事故を抽出・

Taku TADENUMA et al.

島根大学附属病院リハビリテーション部  
 連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1